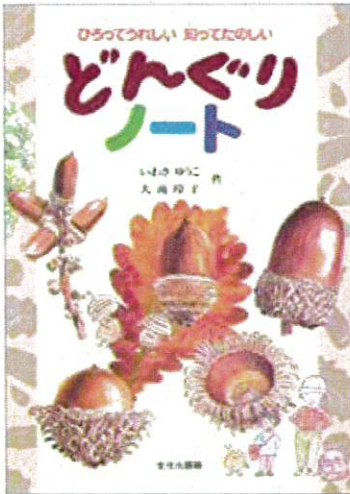


本はともだち

もぐハグ便 10月号

木枯らし一号も吹き、少し前の暑さが嘘のように秋がやってきました。
今月は、季節を楽しむ絵本を三冊ご紹介します。



「どんぐりノート」 いわきゆうこ作 (文化出版局)

ひろってうれしい、知って楽しいどんぐり。

どんぐりを見つけると、子どもも大人もうれしくなるのはなぜでしょう。どんぐり、と呼ばれているものにもいくつも種類があり、大きさ、形もいろいろです。そんな色んなどんぐりの木の種類、どんな地域に自生しているか、どんぐりの形だけでなく、葉の形や楽しみ方など、どんぐりについての色んなことがこの一冊でわかります。本を持って探しに出かけるのも楽しいです。

同じシリーズに「木の実ノート」「20本の木ノート」もあります。



「おおきなおおきなおいも」 赤羽末吉 (福音館)

本の形が児童書の形なので手がいきにくいですが、1972年に第一刷が発行された長く愛されている本です。

幼稚園での教育実践、芋掘り遠足の様子が描かれているのですが、声に出して読んでも本当にリズムがあって楽しく、おおきなおおきなおいもが何ページにも渡って出てくるシーンは子どもも大人もワクワクしてしまいます。

いっぱい遊んで、その後は、みんなでお料理、お料理。

たくさんのおいもを食べた後に出るのは？〇〇〇

最後まで楽しくうれしくなってくる一刷です。



「ハロウィーンの星めぐり」

ウォルター・デ・ラ・メア 詩 (岩崎書店)

ページを開くとまず一面の星がでてきます。詩のように短く続く文章だと思えば、表紙を見ると作、ではなく詩、と書かれていました。納得です。

詩の美しい言葉と、ハロウィーンと星が一緒になった珍しい絵本です。

でも、中身を読めば納得。ハロウィーンを空の様子と共に楽しむ一冊です。